

LEE'S レター 哲樂の中庭 2026年立春

『一年の計は春にあり』

昨日節分、今日立春。『一年の計は春にあり』に続いて『一生の計は勤にあり』というそうです。春は立春、勤は勤勉。まずはそのココロを心にきざむ立春です。

No.40 (通No.119)  
2026年2月4日

ちよんご(じよんご)究めるワーク

際だつライフ

『なまけ者のさとり方』という本が四十年前にヒットしたそうです。本の存在はたい知りませんが、今から十数年前、出たばかりの増補改訂新版を知人からプレゼントされた。タイトルからも想像できるようにシンプルで片意地はらない内容だった(はず)、でもなぜか全然記憶に残っていない。もっと若い時に読んでいたら違っていたかもしれませぬ。

年波のさとり方というか、経験からの学習効果か、年相応にその人なりにさとりが増える。なかでも極めつけは、自分のわかっていけることは黒点一つぐらいだと実感できることでしょうか。そして、十年前わかったつもりだったことが十年経ってみると、全然わかっていなかったとわかる。その時の感覚は…、そう、過去へのちよつ

とした情けなさと、現在それがわかってよかったとほっとする気持ち、それから少し間があつて、頭の中で視界が開けた感じになるのがおもしろい。全てを到底わかり得ないのだから、個人の範囲でわかりたいことをわかるように努力すればいい。そう前向きに諦められて、ふわっとやる気が出てくるからでしょうか。

そう、「さとり」そのものには「静」のイメージですが、結果的には「動」になる。年を重ねるごとにラディカル。ラディカルには急進的な、過激なという意味だけでなく、根本的な、徹底的ななどの芸術家はその典型。彼らに及ばないのはさとりつつ、わたしたちも究めるワーク、際だつライフ。と、いききたいものですね。



『世界を変えた 100 の文書』のトップ

さとりといえば、人それぞれ個々人のさとりにヒント与えてくれる究極が『易経』かなと、ひととおり読み終えて感じているところです。『チャングムの誓い』がNHKで放映されていた頃、ある回で、ミンホがチャングムに『易経』を勧める場面があった。もちろん名前は知っていましたが、“易の本がどう役立つの？ それだけじゃない？”と疑問に思い、頭の隅に残った。音読習慣のおかげで読むことになってよかった。「物盛んなれば必ず衰う」、「窮すれば通ず」、この二つは永遠の誡め、そして激励です。ところで、ふと思い出して8年前に買った『世界を変えた 100 の文書』を開きました。そう、トップは『易経』。

# 『過去はすこしも決定されていない』

## 過去に開眼、未来を大観

人それぞれのさとり。そのプロセスも十人十色ですが、個人的には、独立して仕事することにしたのが、さとの道のりとなりました。試行錯誤、孤軍奮闘、葛藤つづきが、自分なりの答えを得る結果になったのです。独立してよかったことの一歩。なによりそれらが心の安定の術になり、後押しになっている。現在ここに至って、胸をなでおろす今日この頃です。

ちなみに直近では、「何様でもないけど、何者かではあるなあ」と思えた。短所も何もかもを認めて、素直に、オープンに、自分をみる。自負というほどでもないし、誰も皆そう、という目線です。

ところで、本を読んでいて、著者のさとりに自分のさとりが掘りおこされ

ることがあります。例えば、『人生の作品』（三浦雅士 NTT 出版 2010 年）の著者の説くこと。

過去は少しも決定されていないし、逆に、未来はすべて決定されていると言ってもいいのだ。人間の自由はむしろ過去へと向かって開かれている。人はただ、歴史を書き変えるように未来を書き変えるのである。

新聞の広告で本のタイトルをみて、買った一冊。実は読んだのは第一章だけです。当時は、二章以降はあまり気をそそらなかつた。この箇所のインパクトが大きかったのかもしれない。特に、「過去は少しも決定されていない」に、目が開いた。たしかに、未来が変われば過去の意味合いは変わる。

マイナスでとらえていたある過去が、それ相当の年月が経って、みると、プラスだったと思える。あるいは、10 年前の時点でもとらえた過去の象徴的なことが、10 年経ってみると、別なことの方が象徴的に思える。

あれほど思い入れていたことが、すっかり記憶から飛んでいたのに気づくこともある。これはけっこう衝撃的です。でもそれでよしと思えるのであれば、また少し視界のひらけた場所に立っているということではないでしょうか。

まだ寒いけれど光は春めく立春。本格的な春、新しい年度を前に、仕事と人生を眺望するのも一考です。過去に、未来に、みえるものがあるかもしれません。



### 時に立ちどまり〈先を読む〉

「女性チャレンジ応援拠点」の『[拠点ゼミ〈車座オープンコソル](#)』時に立ちどまり先を読む 2026 年春』が開催されます。

年三回の最終、このゼミを継続して参加して、自身のタスクチェックにしている方も少なくなりません。

初めて方もどうぞふるってご参加ください。すでにチャレンジを始めた人もこれからの人も、先輩たちの実践がヒントになるはずです。

- 日時：3月7日（土）10時
- 場所：[クレオ大阪中央館](#)



### 冬ごもりのマイブーム

夏は暑くて余計なことではできない分、冬はこもりがちなので、ちょっとしたきっかけで何かにハマります。ある年は読んだ本の「あとがき」音読録音、別な年は映画音の挿入歌を YouTube で聴きどおしなど等。

今年は「お笑い」。画面をみなくても済む漫才を YouTube で検索。最近のコンビを 2, 3 組あたって聴く。でも続けて聴く気にはならない。

そこで「やすきよ」、やはり凄い。ネタの本筋に枝葉が自由自在にからまりながら、全体の統制がとれて、着地する。熱心なファンではないので、今さらながら希少なコンビだった再認識しました。

つい先日は「中川家」をチェック、感心することしきりです。「笑い」が脳と顔の筋肉をほぐす効果もありも実感。